

英知通信



昭和55年11月20日

英知大学

No.29

新任のあいさつ

英知大学の教育を見つめて

英知大学後援会会長 東 功



歴代の名会長の後を受けまして、非才の私が後援会会長を仰せつかり責任の重大さを覚えております。気心の判った副会長をはじめ役員各位のご協力をお願い致し甚だ微力ではございますが、誠心誠意明朗且つ積極的に運営し、任を全うする覚悟でございます。

後援会会則の「目的」は「英知大学のカトリシズムに基づく教育方針を尊重し、同大学との連絡を密にしつつその教育事業を援助し、併せて会員相互の親睦を図ることを目的とする」とあり、その目的遂行の為の「事業」が五つ掲げられております。

アイテム一、「大学の教育研究環境事業の経済援助」については可能

な限りご支援する事とし、本年度は二六五〇万円(予算の九二%)の助成金が総会で可決されました。

続いてアイテム四、「会員の親睦」につきましては後援会総会等の他に大学諸行事の凡ゆる機会を捉えまして、大学・父兄相互の懇親会を開催し度いものでございます。

先日の総会後のお茶の会は従来の慣習を破り、傘木学長の格別のお執り成しによりまして、多数の教授方がご多用中にも拘らず万障お繰合せご参会頂き大変有意義な連絡会を持つ事が出来ましたが、今後もより以上大勢の方々のご出席を希う次第でございます。

又この懇談会では多数の方々から学長はじめ諸先生方の講演を希望されましたのでご希望を容れ、懇談会と講演の二本柱で一層の親睦を図りたいと考えてございます。深いご理解と絶大なご協力を賜ります様お願い申し上げます。

英知大学の建学精神はご承知の通り「キリスト教的ヒューマニズム、カトリシズムの教育理念に基く、人間教育・健全な価値観と豊かな国際性を身につけた人間の形成」であります。日本人がほんとうに国際社会の一員としての社会的義務を忠実に果せる様な国際的日本人となるため

には、想像力、創造力を兼ね備え、人間形成、外国語及外国文化・文学の理解習得は必須要件ですが、我が国の大多数の大学がマンモス化し授業時間の切り売りの観さえ呈している現況下、一千人内外のコンパクトな当大学で真善美の真理を探究する事が出来る当大学の学生諸君は実に幸福であると申せましょう。

然し乍らただ単に大学だけに「子供の教育、道徳、躰」を委ねられるものではなく、我々父兄も「道徳としつけ」に対しては大いなる責任があると考えます。

大学、家庭が一致して「全体によ

昭和五十五年度

英知大学後援会

新役員決まる

会則によりまして、会長・副会長監査は総会で選出し、その会長が常任理事・理事を委嘱して全役員が決まります。こうして昭和五十五年度の役員は次の通りに決まりました。(敬称略)

会長	東 功
副会長	北原 啓三郎
常任理事	阪本 美佐子
理事	桑野 博昭
同	浄閑 政雄
同	網谷 義郎
同	佐々木 義隆
同	谷本 元博
同	橋本 元貞
同	芝谷 昭三
同	岡田 和一
同	山西 寅男
同	広野 洋逸
同	田中 良一

る教育活動」に邁進し、無気力、無責任、無関心、無感動、無作法の五無主義がはびこっている現大学生気質を払拭、打破するには躰や道徳について父兄は正しい人生観、価値観を学生に勇気をもって「押しつけ」置きする「気持で指導され、愛と奉仕の崇高なカトリシズムに則った当大学の教育の成果が更に挙げます様協力しようではありませんか。

註 総会の講演で学長が特に躰について家庭の協力を要望されましたので就任のご挨拶に代え、私見を申し述べました。

理事	権野 由洋
同	田金 正治
同	大垣 典夫
同	安東 昭治
監査	関 利明
同	松田 利明

なおご子弟の昭和五十五年三月ご卒業によって役員を退任された方々は次のとおりです。

会長	野口 徹
副会長	井穴 寛
同	和田 義次
監査	道野 裕

これらの方々には、本会発展のために多大のご尽力を賜りましたそのご功績に対し、衷心より感謝申し上げます。今後とも本学発展のためにご協力をお願い申し上げますと共に皆様のご健康をお祈りいたします。

第六回

英知大学後援会総会を開く

一、日時 五月三十一日(土) 午後二時半

二、場所 英知大学本館三二教室 出席者 六十六名

本年は出席申込者は九十六名でしたが、当日折悪しく雨天のため出席者は六十六名となり、近年にない少数となりましたが、それでも松山、名古屋、岐阜等遠隔の地からご来学下さった熱心なご父兄もございました。その他は例年通り、大阪、兵庫京都、奈良、和歌山などの近府県の方々でした。

総会は次のように行われました。1開会のことば

井穴副会長が「雨天にもかかわらずご出席頂き有難うございました。本学のために十分なご審議をお願いいたします」と開会を告げる。

2会長あいさつ

「本日ここに昭和五十五年度の総会を開催いたしましたところ雨天にもかかわらずご出席頂き有難うございました。本学は会員の協力により施設が着々と充実し、今は新生生ホールの完成を見ております。これをもって環境は完全に整備されます。今後は内容に力を入れていただき、学問の探究はもとより、「しつけ」にも意を注いでいただき、カトリック大学として、よき学生を育てていただきたいと存じます。只今より総会の次第により議事に入りますから、審議のほどをお願いいたします。」

学長講話

傘木学長はまず後援会の援助・協

力に感謝し、本学の発展の経緯と今後の見通しについて述べた後、大学教育と家庭のあり方について次のような要旨の講話をされた。

「最近大学生の傾向として一種の『幼児的明るさ』が指摘されているが、これは必ずしも望ましい傾向ではなく、その原因は学校教育における学力偏重や事なかれ主義の悪弊にある。即ち個性、創造性の教育を放棄した、画一的な、無気力な学校教育から来る。こういう教育は他面に『落ちこぼれ』を生み出し、暴走族や非行化の原因ともなっている。従って今日、家庭教育、人間教育における両親の責任はますます重大である。幼少期の躾教育の重要性は云々までもないが、今日では大学生になつてからも、親は人間としての生き方について子弟の良き相談相手となり、共に成長していく態度が求められる。確固たる価値観、教育理念を必要とする人間教育、道徳教育は今の日本では私学、とくにミッションスクールの重大な使命であり、本学はこれからもこの使命感をもって、ますます充実した教育に努めていき、後援会の皆様の変わらぬ応援とご協力をお願いする次第である。」

議事

会則第十一条により会長が議長となり議事を進める。

1昭和五十四年度決算報告

議長の名指により石田書記が別紙決算書に基づいて、各項目について説明。助成金は総会の決議により全額を学生ホールに

2監査報告

阪本監査より、帳簿・証拠書類等すべて完備され、その会計処理が適正に行われていることを証明するとの報告があつて満場一致で承認。

3昭和五十五年度予算案審議

議長の名指に基づいて石田書記が別紙により説明。本年度より毎年会費を納入する会員がなくなり、新入生のみのお会費収入となつたため総収入が昨年度より減少していると説明。満場一致賛成可決。

4役員改選

会則第九条により役員任期は一年となつていたので改選の必要があるとの説明に対し、会員の中から理事事に案があれば提示してほしいとの意見がありこの意見が支持されたので、会長より次のように発表。

- 会長 東 功(新任)
- 副会長 北原啓三郎(新任)
- 同 坂本美佐子(新任)
- 監査 関 忠(新任)
- 同 松田 利明(新任)

この案に対し、盛大な拍手が起り満場一致で原案通り可決決定。

5新会長あいさつ

東新会長から「突然の名指決定に驚いています。私の如き浅学非才の者は到底その器ではございませんが、会員の皆様から、かくも絶大なご推挙によつて決定しました以上、役員並びに会員の皆様のご協力により、その責を果したいと存じておりますので、よろしくお願いいたします」との力強い決意を表明する挨拶があつた。

6記念品贈呈

野口前会長、井穴・和両前副会長並びに道野前監査の方々の

永年に亘つてのご尽力、ご功績に対し東新会長より記念品を贈呈し、会員一同万雷の拍手をもつて感謝の意を表明。

7閉会のことば

和田副会長の「英知大学の人間教育はすばらしい。先生とのふれあいによる人格交流など、他大学には見られないよさを持つている。わが英知大学こそ近い将来には日本一の大学になることは間違いない。どうか皆様のご協力をお願いいたします」との希望に満ちた閉会のことばをもつて会を閉じる。

茶話会を開く

総会を終つて茶話会に移る。恒例の茶話会でご父兄もお待ちかねの様子がかがわれた。本年の茶話会は各学科別にグループに分れ、各グループにその学科の先生が一人ずつ着いて、お茶を飲みつつ話し合うということになった。これはご父兄の方



風景談話あう話し方先生

々からの要望で計画されたもので、各グループとも活発な話し合いが行われ、和やかなうちにも真剣さがただよつていた。またマイクを廻して次々意見の発表をしていただいた。

その一、二を拾つてみると、「こんな立派なよい大学とは知らなかった。」「園田に住みながらこんな近くにこんな立派な大学があるの知らなかった。」「先生が大変親切である。」「大学へ来てお友達が出来て喜んでくれる。」「よく挨拶をするようになった。」「大学の話をよくしてくるようになった。」「最後に皆さんからのご意見として「先生方の講演会をお願いして具体的にこの大学の教育について聴きたい、語り合いたい」などと次々に本大学で学ぶ喜びが語られた楽しい集いであつた。各会員この感動を胸に秘めながら五時頃散会、家路につかれた。

後援会主催

第六回親睦パーティーを開く

十一月三日は絶好の秋日和で、文化の日にふさわしい好天に恵まれ、恒例の第六回親睦パーティーが催された。会員相互の親睦を深め、大学の教育理念を理解しようとする計画され、始められてから本年度で早や六回目を迎え、年毎に盛大になり、当初の目的を達成しつつあるのは、まことに喜ばしいことである。午前中は本学の玉谷直実助教授による一人間の成長と父母の役割についての講演があり、父兄の方々に深い感銘を与えた。続いて正午から食堂で親睦パーティーが行なわれた。まず北原副会長が開会のことばを述べ、東会長の挨拶に続いて傘木学長の挨拶があつた。次いで、東会長の音頭で全員が乾杯した。会食・懇談のあと、最後に阪本副会長が閉会のことばを述べた。東会長は挨拶の中で、会員各位の協力と援助を感謝し、「近年高等教育の普及はめざましく、従つて優



秀な人材が輩出するはずであるが、最近の若者は人間形成ができていないように思える。わが英知大学は学長はじめ諸先生が一体となって人間形成に取り組んでおられる大学である。このような立派な大学で学べることは私たちの子弟は勿論、私たち親にとっても幸せなことである」と述べられた。

傘木学長はまず後援会の協力と援助に対し感謝し、懇親パーティがいかに有意義であるかを強調し、「総会の折も父兄と先生方との話し合いがなされて喜んで頂いたが、今日は先生も大勢参加しておられるので十分に懇談して欲しい。また大学に対する要望も遠慮なく聞かせて欲しい」と挨拶された。

本年の参加者は父兄一四八名、教員二十七名で、これは例年になく多数であり、中には鳥取、松江、各務原など遠方からの参加者もあり、夫婦同伴の出席も三十六組にのぼった。各学科別グループでその学科の教授を囲んで着席し、なごやかな雰囲気の中に、子弟の教育についても熱心な話し合いがなされ、時の経つのも忘れる程であった。最後に全員起立し、英知大学と後援会の前途を

祝福して声高らかに万才を三唱し、閉会した。このあと多くの父兄の方々が、新学生会館での映画や音楽会などの催し物や模擬店など、学生たちと共に、学園祭最終日の和やかな一時を楽しんでおられた。
(以上文責・石田知一)

玉谷直実先生講演要旨

「人間の成長と父母の役割」

父母の役割の相違は、母親にとつては「わが子はよい子」で、包み込むのを特徴とするのに対し、父親は反対に「よい子はわが子」と考え、善悪・上下のけじめを明確にして切断する機能を持つところにある。父性と母性の現われ方は時代により異なり、かつては男性がその役割を果たし易い社会であったし、母親も家の中にいることによって母親の役割を果たすことは容易であった。しかし今は社会規範が不明瞭となり、父親は混乱し、従って母親も母性とは何か、いかに包み込むかが分らなくなりました。今日子供は社会の押しつける規範を認めることはせず、自分の中から出てくる規範を親に、大人に求めている。親はこのことをよく自覚して、こういう善悪のけじめをまず自分の中に確立し、このけじめの体験を子供に与えていかねばならない。子供はそれによってはじめて成熟を遂げていくことができる。



望ましい躰け方、育て方というような定まった方法はない。相手は生きものであるから。そこで一父性とは断固たるもの」とばかり一本調子で断固とやっても必ずしも成功しない。優しさだけでもいけない。結局父親としての本当の愛の体験をさせてやるのが大切だ。親が苦しんで子供との真剣な対決の場で得た悟りや確信に基づいての言動こそ、子によい影響を与えることができるのだ。両親の和合、方針の一致も大切だ。父親の役割は子が悪いことをした時、一番よく分る。不良少年ほど父の怖さをよく知っており、父親の愛をよく見ている。この点優等生の子はそういうところが無い。従って優等生だからといって必ずしもよいとは言えない。

母親の役割は父の姿を子に伝えることにあると言え。例えば登校拒否の場合、背後の問題が大きいものである。即ち夫婦の間がうまくいって、互いに尊敬もない、間柄など、優しいようであるが、万妻まかせの無責任な夫と、そういう夫に従順も尊敬もなく馬鹿にする妻と。こういう母親は子とべつたりの関係になる。登校拒否児の父母は強い母親と弱い父親というのが普通で、子はこういう父親を弱虫と見ているから、社会の厳しさも身につかず、社会を馬鹿にして暮すようになる。成長の節目、きまりやけじめを与えられず育った子は、社会の厳しさが仲間分らず、こうした中で登校拒否や家庭内暴力が起こる。家庭内暴力は家の中に問題があるから、いわばそれを正すために暴力を振るのだ。登校拒否も二代、三代で生まれるものである。即ち例えば母親が祖母と密着して父親の悪口を云っているような家庭の子は登校拒否になり易く、こうした場合母親はその密着を切断して、夫婦関係をまともにする勇断が必要である。(文責・広報室)

昭和54年度 英知大学後援会決算書

自昭和54年4月1日
至昭和55年3月31日

1. 収入の部			
項目	金額	備考	
入会金	7,920,000	3万円×264人	新1年生分
会費	21,280,000	8万円×266人	新1年生分
年会費	2,280,000	4年生納入金	
雑収入	448,934	銀行利息、パーティ会費	
繰越金	1,045,546		
収入合計	32,974,480		

2. 支出の部			
項目	金額	備考	
助成金	30,000,000	英知大学への助成金 ※	
事業費	1,068,210	総会パーティ、先生との懇親会	
事務費	80,400	印刷通信費	
会議費	164,820	年4回の会議費	
慶弔費	108,420	準前学長への記念品料 出陣8人分	
雑費			
予備費	40,500	前会長副会長に対する記念品料	
繰越金	1,512,130		
支出合計	32,974,480		

3. 差引残高無

※昭和54年度後援会助成金3,000万円は総会の決議により全額を学生ホールの建設資金に充当する。

昭和55年度 英知大学後援会予算書

昭和55年4月1日
至昭和56年3月31日

1. 収入の部			
項目	金額	備考	
入会金	7,320,000	3万円×244人	新1年生分
会費	19,520,000	8万円×244人	新1年生分
雑収入	300,000	銀行利息、他	
繰越金	1,512,130		
収入合計	28,652,130		

2. 支出の部			
項目	金額	備考	
助成金	26,500,000	英知大学への助成金	
事業費	1,300,000	総会パーティ、先生との懇親会	
事務費	150,000	印刷通信費	
会議費	200,000	年4回の会議費	
慶弔費	100,000		
雑費	102,130		
予備費	300,000		
支出合計	28,652,130		

3. 差引残高無

第十七回

英知大学祭開催

「はじめの第一歩」をテーマに第十七回英知大学祭は「やったん祭」と称して十一月一日から三日間、新学生会館を中心に開催された。今回は例年の行事に加えて、改修されたグラウンドで行われた兵庫医大とのラグビー試合（一八対十一で本学の勝）によっていつそう盛り上がり、二日目のビッグ・イベントではオール阪神・巨人をはじめ数々のフォーク・バンドが登場、さらに学生を一所に集中させるための試行として学生会館での催しと野外ステージでの催しの時間をずらせるなど、新しい企画が随所にみられ、これまでにない内容の充実した盛大な大学祭であった。

初日は恒例の田吾作大行進の一行総勢百余人が、ブラスバンドの演奏とともに午前十一時、快晴の幸運に恵まれて阪神尼崎商店街から阪急塚口への行進に出発した。午後一時からは野外ステージで田吾作コンテラストが行われ、優勝はアメリカン・フットボール部、準優勝は吹奏楽部が獲得した。新しい学生会館のステージでは、サキソフォン奏者・野田燎コンサートや西語研究会による西語劇セルバンテスの一忠実なる見張り番、E・S・Sによる英語劇ロード・アルフレッド・テニソンの「イノック・アーデン」の公演が行われまた吹奏楽部の演奏に続いて邦楽部八人の美女により「虹の舞曲」が演奏された。舞台ではスポットライトやポーターライトがフルに活用され観客はさながら劇場の雰囲気陶酔した。最終日には、野外ステージでのアトラクションとして空手や剣道の模範演技が披露された。用意され

た木板が瞬時に叩き割られる光景、二十枚ほどの瓦が気合とともに見事に砕け散る迫力に、満席の観客から思わず拍手と感嘆の声があがった。夕刻には学生会館ホールでダンスパーティーが催され、学生たちは思いきりフィーバーした。こうしてスポーツ、文化系クラブの一年間の成果をぞんぶんに披露し、多数の学生、父兄、および卒業生の参加によって盛りあがった第十七回大学祭はその盛大な祭典の幕を閉じた。



学園ニュース

○新・学生会館が完成

昨年秋季に建築工事が始められた学生会館は今年五月末、本学のキャンパスによく調和した美しい姿で完成した。後期の授業が開始された九月には、会館の使用規程等も決定して、いよいよ本格的に活動を開始した。

一階のラウンジには連日学生たちがひっきりなしに出入りしており、学園生活の心臓部として大いに利用されている。このようにして新・学生会館は、今後ますます学生間の自主活動、課外活動を発展させ、人格的交流を深める場として本学の建学の精神でもある「人間形成」に大きく寄与するものと期待されている。

○グラウンドの改修成る

新学生会館の完成に次いで七月一日から約二ヶ月間の夏期休暇を利用して、グラウンドの改修工事が行われた。改修以前はグラウンドの中央部分が最も低い「すり鉢状態」であったため、雨天時の水はけが非常に悪く、そのたびにどろんこの練習風景が見られたものであった。改修方法としてグラウンドの中央部分を最も高くし、周囲へ向かって自然な傾斜をつけ、水はけを良くするために外廻りにU字溝が掘られた。この改修によって、今後は悪天候のために運動を中止せざるを得ない状態からは解放され、同時にこれまでより一層広大なグラウンドとなった。管理課では「学生は自分たちのグラウンドであることを十分認識した上で、使用後は雑草を取り地ならしをするなど常にグラウンドの状態が良好であるように心がけてほしい」と願っている。

深まりゆく秋のグラウンドで体育系クラブが練習に励むさまは、またいちだんと勇猛果敢である。

○愛の献血運動に百六人が参加

カトリック研究会が主催した恒例のカトリック研究会の主催による今年度第二回目の「愛の献血運動」が十月二日に実施された。今回は申し込み者数百六人のうち正者の百人が一人あたり二百CCを献血し合計百本の血液が集まった。この献血運動は年間三回の実施を目標とし第一回は去る六月十九日に実施されている。なお第三回は来年一月二十二日の実施が予定されている。

キャンパス内の献血風景も回を重ねるにつれてなじみ深いものになってきたが、献血という重大な社会参加になお一層の盛り上がりが期待されている。

○神学公開講座

本学では修道女、一般信徒およびカトリックに関心をもつ社会人を対象に、毎年夏期休暇中に五日間神学講座が開催されている。これは本学神学科教授陣を中心に、五日間一つのテーマについて神学をわかり易く解説するものであり、今年度は去る七月十四日から十八日まで「祈り」をテーマに開催された。今年で十九回目を数える夏期神学講座の過去三年間のテーマは「十字架の秘義」、「要理教育について」、「神の体験—神秘神学の諸問題」であった。本学ではこの夏期講座のほかに、毎年度年間の神学公開講座も開催している。今年度の会場は北浜カトリック教会。この講座は全コースを聴講し、一定の単位数を取得した者にはカテキスタの免状が与えられる。双方とも詳細は本学神学講座係まで。

○中野正勝神父が帰国

本学神学科専任講師中野正勝神父はローマに留学中であつたが、今年六月、四年間の研究を終了し、神学博士号を取得して、八月に帰国された。中野講師は英知大学教授館に居住して、神学科で「聖体論」、「恩恵論」を講義する傍ら、英知大学宗教主事として、毎週火曜日のチャペル・アワー、木曜日のミサを行いながら、学生達のよき相談相手として活躍される。

新人事

- 九月三十日付 退任
- 宗教主事 西山俊彦教授
- 十月一日付 新任
- 教養課程委員長 西山俊彦教授
- 宗教主事 中野正勝講師

昭和五十六年度

入学試験日程

推薦入試
出願期間十一月十二日から十一月二十六日まで。
試験日十二月三日、四日、五日
合格発表十二月十一日
試験入試
出願期間一月二十六日から二月九日まで。
試験日二月十六日、十七日、十八日
合格発表二月二十五日

入学試験科目は、推薦入学には現代国語、英語および面接、試験入試には国語、英語、小論文および面接がある。
詳細は尼崎市若王寺二一八—一英知大学教務課入試係まで。

研究室だより

G・ベッキ教授最近の著書
「イエズスの神秘」一九九九年(七〇頁)
「神の痛み」一九〇九年(五頁)
出版社・「宗教と生活」
(PARMA, OHIO, USA)
「道」その未知なるもの「一九九九年
VIGILIA(月刊紙)ブダペスト
(七六〇)七六六頁
いずれもハンガリー語

英知通信

昭和五十五年十一月二十日発行
編集 英知大学広報室
発行者 兵庫県尼崎市若王寺
二一八—一
(06)四九一一五〇八三
六六一